

裏磐梯の自然と高山植物

2年 A・I

高山植物に興味を持ったきっかけは、入門講座での大平先生の講義でした。水芭蕉という高山植物には毒があって、冬眠を終えた熊が水芭蕉をわざと食べて、おなかにたまっていた宿便を出すための食べ物として食べられていることを知りました。今までは、毒のある植物というと「危険なもの」と思っていました。しかし、このお話を聞いた後は、動物にとってなくてはならないものになりました。そこで、「植物って面白いなほかににはどんな便利な植物があるだろう？」と思って高山植物を調べることにしました。

<磐梯山に行ったら・・・>



私が見たいなと思ったのは、「タムシバ」という植物です。元々は歯を噛むとほのかに甘味があることから「カムシバ」という名前だったのですが、なぜか「カ」が「タ」に変わってしまいました。別名は、ニオイコブシといってその名の通りとてもいい香りがします。だからこの香りを使っている化粧水もあるのだそうです。ほかには「ノアザミ」という植物があります。

ノアザミにはタンポポのようにたくさんの花びらがあります。成熟した花の先端を触ると花粉が出て、そっとしておくといっぺんこむようになっています。これは、虫が花にとまったときに体について、花粉を運んでくれる役割があるからです。だからこの花は受粉が起りません。さらに、磐梯山の固有種もあります。それは「バンダイクワガタ」といいます。名前の由来は、花がクワガタに似ているところと、磐梯山のバンダイを取って名付けられました。磐梯山の沼ノ平周辺や、噴火口上部なので見ることができます。残念ながら6月頃に花が咲くので私たちは見ることはできません。

<1日目 湖畔の森>

1日目は湖畔の森と、天鏡閣を散策しました。ネイチャーガイドの先生は、A先生とメールのやり取りをされていて、入門講座の時には、糞を見れば、どの動物のうんこかがすぐ分かるすごい方というお話をうかがっていたあのY先生でした。実際に会ってみると、「Yちゃん」と書いてある名札を付けていて、面白い人だなと思いました。

初めに天鏡閣を見学しました。明治41年に立った建物です。床などが、私の体重では壊れてしまうのではないだろうかと思いましたが、壊れずに済みました。明治から平成ま

で生き残るなんて、やはり天皇の力というのはすごいのだなと思いました。建物のガラスは全部手作りでとても貴重なものなのですが、3月の震災の時に何枚かわれてしまったのですがなかなかガラスは手に入らないのだそうです。

湖畔の森では、たくさんの植物や、動物を観察しました。植物はクロモジやコブシなどが、小枝を削るといい香りがするものがありました。Y先生は、ハシバミでひどい目にあったそうです。うっかりそれに触ってしまい、手にはたくさんのトゲが刺さっていました。



↑(ハシバミの実)

ハシバミにトゲがあることをすっかり忘れていたそうです。おかげでピンセットでは抜けないので、ガムテープをくっつけてとったそうです。アカマツにはヤニが木の幹からでています。それを手に塗ると、野球でよく使う滑り止めになるそうです。ミズキという木には、熊が実を食べるので、食べた跡がわかります。普通だったら下に折れているはずなのに、重力に逆らって上に向かって折れているということは、木の上に座って実を食べた跡なのです。動物は、普段見られないようなものがたくさんありました。最初に見たのはバツタでした。ゴキブリ！？と思うような黒いバツタでした。次にキツツキやムササビが木にあけた穴を見ました。穴の中にいる動物を見るには、靴で木をたたけば何があったのかな？と心配になって顔を出すのだそうです。しかし、それは少しかわいそうだなと思いました。迎賓館の近くでは、アマガエルを見ました。草などの緑色の所では、黄緑色の体ですが、地面などでは茶色っぽく体の色が変化します。他には、「トリカブト」という植物を見ました。トリカブトには強力な毒があって、昔、このトリカブトを少しずつ食べ物に入れて妻を殺してしまったという、トリカブト殺人事件がありました。とても怖いなと思いました。そこでY先生がマジックを見せてくれました。

ハシバミにトゲがあることをすっかり忘れていたそうです。おかげでピンセットでは抜けないので、ガムテープをくっつけてとったそうです。アカマツにはヤニが木の幹からでています。それを手に塗ると、野球でよく使う滑り止めになるそうです。ミズキという木には、熊が実を食べるので、食べた跡がわかります。普通

だったら下に折れているはずなのに、重力に逆



トンボをテーブルの上にあお向けに寝かせて「あなたはだんだん眠くなる〜♪」と言って、そっと手を離すと不思議なことに本当に眠ってしまいました。このマジックのトリックは、実はトンボの性質にあります。トンボは、あお向けになるという体勢がとてもリラックスできるため、眠ってしまうのだそうです。次

に出会ったのは、巨大ナメクジです。普通のナメクジは、体長5cmほどですが、巨大ナメ

クジはおよそ25cmありました。このナメクジを倒すのにいったいどのぐらいの塩が必要



↑キノコの裏側

なのだろうと思いました。大好物がキノコで、キノコをむしゃむしゃ食べているところを何度か発見しました。ちなみにキノコは、裏がスポンジのようになっているものは全部食べられるのですが、ひらが付いているものは食べられないのだそうです。布佐ではトンボは赤トンボなどの小さいものしかいませんが、ここには、見たこともないような巨大な鬼ヤンマがいました。そのオニヤンマが飛んでいたそば畑の横には、熊の足跡がありました。最後に、地面にポツリと落ちていたのがエゾゼミでした。死んでしまった虫は内臓がどんどん腐ってしまい、きれいに残っていないのですが、このエゾゼミは、内臓が虫などに食べられていてそのままの状態が残っていました。エゾゼミは、羽が網のようになっているので、私たちの身近にいるアブラゼミなどのセミ達とは違い、とてもキレイでした。このように1日目には、植物以外に動物などもたくさん観察することができました。

なのだろうと思いました。大好物がキノコで、キノコをむしゃむしゃ食べているところを何度か発見しました。ちなみにキノコは、裏がスポンジのようになっているものは全部食べられるのですが、ひらが付いているものは食べられないのだそうです。布佐ではトンボは赤トンボなどの小さいものしかいませんが、ここには、見たこともないような巨大な鬼ヤンマがいました。そのオニヤンマが飛んでいたそば畑の横には、熊の

<2日目 裏磐梯野鳥の森>

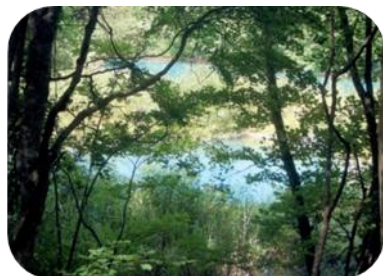
2日目は「高原の植物を調べよう」というテーマで、ネイチャーガイドの先生はA先生でした。裏磐梯野鳥の森という所を、展望台を目指して歩きました。機能も見た植物もたくさんありましたが、同じ植物でも新しくたくさんの特徴を知ることができました。クロモジは「どこかで嗅いだことのある匂いだな？」と置いていたら、防虫剤に使われていることがあるというのを知りました。サンショはうな重にかけてあります。そして、ついにタムシバを発見しました。クロモジと似ているのですが、タムシバならではの独特の香りがしました。しばらくきつい階段をのぼった後のブナ林でいきなり阿部先生が「クマだっ！！」と言っていて、ドキッとしました。先生が言うには100m離れたところに居たそうです。そんなに遠くの音まで感じ取れるなんて、観察力がすごいなと思いました。クマは人間が来たときに敵だと思って、いつでも襲えるようになって、通り過ぎるのをじっと、待っているそうです。それを知ったときには、とても怖いなあと思いました。きつい坂を上るとそこには、展望台があり桧原湖と磐梯山が一望できて、まさに絶景でした。野鳥の森から出ると、目の前には桧原湖が広がっています。湖に行ってみると何かのフンがありました。何のフンかと言うと、「テン」という動物のフンでした。フンがおいてあるということは、そのフンをしたテンが桧原湖の周りの縄張りの主なのだそうです。このように動物がフンをすることで、植物の種が運ばれ、またそこに新しい芽が生まれます。

A先生は植物のことの中でも、特にどのように種が運ばれるかについて詳しく話してくだ

さいました。運び方には大きく分けて5種類あります。1つ目は、風に乗って飛ぶ植物で、タンポポなどのキク科の植物が多いです。2つ目は、種子を飛ばす植物で、熟すと種が飛んでいく仕組みがあるカタバミなどがあります。3つ目は、動物の体につく植物で、種子に棘などがあり毛にくっつくことができるノブキなどがあります。4つ目は、動物に食べられて運んでもらう植物で、先ほど紹介したテンのフンのように排出された場所で芽が出る植物です。これにはヤドリギなどがあります。5つ目は、動物に運んでもらう植物です。食べてもらうのではなく、越冬や一時貯蔵のためにリスやネズミが運んできた植物の中で、食べられなかったものが発芽します。これにはブナ、クルミなどがあります。このようにたくさんの種の運び方があることがわかりました。

<3日目 ウォークラリー>

3日目には、休暇村から五色沼までを歩きました。特に五色沼のるり沼は青く澄んでいて、とてもきれいでした。この沼にはウカミカマゴケというコケが湖の底を埋め尽くしてマツのようになっていました。他の青く澄んだ沼には、青沼や弁天沼などがあります。



←るり沼